

ST 上昇型急性心筋梗塞治療に対するアルチマスター・シロリムス溶出性ステントの早期および慢性期血管反応 機序の探索

この臨床研究の目的は、急性心筋梗塞に対する冠動脈 PCI 治療における、アルチマスター・シロリムス溶出性ステントの留置後の早期、慢性期血管反応を調査することです。現在、急性心筋梗塞の治療に、細胞の増殖を抑制する薬物の塗布してある薬物溶出性ステントが広く使われるようになって参りましたが、ステント血栓症などの安全性については臨床データが不足しています。また薬物溶出性ステントも新たな改良が加えられ、薬物が血管表面側だけに塗られ、ポリマーも分解され、最後は金属のステントだけが残るという、より長期安全性に配慮したデザインのもので使用できるようになりました。そこで、上述の特徴を有し、現在国内で使用できる最新の薬物溶出性ステントであるアルチマスター・シロリムス溶出性ステントを用いて治療した ST 上昇型急性心筋梗塞患者様に関し、他の冠動脈の治療が必要とされる際や 1 年後に通常行われるカテーテル検査の際に、ステント内の血管反応を光干渉断層法(OFDI)という血管内イメージング法を用いて観察し、早期から血管の修復反応が進み、慢性期にも安全な状態にあることを証明させていただくことに致しました。

本研究は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。